

平成 27 年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名

福岡県教育委員会

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型のいずれかに○を付してください。

☐	Ⅰ型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
☐	Ⅱ型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
☐	Ⅲ型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
福岡県	高等学校	全日制	福岡県立 ^{おんが} 遠賀高等学校
福岡県	高等学校	定時制	福岡県立ひびき高等学校

2 研究課題

生徒指導や学習指導で多くの課題を抱える高等学校において、発達障害のある生徒に対する効果的なキャリア教育や関係機関と連携した就労支援、就労後の支援の在り方の研究を行う。

3 研究の概要

生徒指導面や学習指導面で課題を抱える高校に、発達障害など特別な支援が必要な生徒も多数在籍しているという実態を踏まえ、異なる特色のある2校をモデル校として、発達障害のある生徒に対するキャリア教育や、関係機関と連携した就労支援等の在り方の研究を行う。

本研究では就職支援ネットワーク会議を開催し、発達障害に理解のある企業を増やす具体的な方策について検討し、関係機関への働きかけを行う。

また、特別支援教育就職支援コーディネーターを配置して、モデル校との協働体制のもと、発達障害のある生徒に対し、進路に対する意識を高めるキャリア教育や、障害の程度に応じた就職先の開拓及び効果的な就職指導を行い、就職決定を試みる。

さらに、卒業生の就労に関するトラブル等を把握し、関係機関の協力も得ながら支援を行う。

この取組で得られた成果や課題について研修会等を通して普及させ、発達障害のある生徒の適切な就労及び就労の継続による安定的な生活維持の実現を図る。

4 研究の成果

9月の勤務開始から両モデル校において担任による指導だけでは対応が難しい生徒に対する面談を実施する。数回の面談を経て働くことへの意欲を高め、自分の適性について考えさせた。その後、履歴書・志望理由書の作成、面接練習に取り組んだ。期間中の指導件数は遠賀高校では延べ53件、ひびき高校では延べ91件である。また生徒の受験先企業を訪問して、生徒の受験時の状況についての情報収集を行い、その後の本人への指導につなぐようにした。3年生の指導が落ち着いた11月から、2年生の指導に重点を移した。就労について困難を抱える可能性がある生徒については、本人自身が困難さを感じにくいように、働くことへの意欲を高めることや自分の適性について考えるよう働きかけるためには、かなりの時間が必要となる。また面談の過程でソーシャルスキルの低さが就業への支障となる可能性が高いと判断されたため、ソーシャルスキルの指導を充実させる必要性を認識した。特定の生徒だけを面談すると、指導に対して「なぜ自分だけ」という気

持ちを抱かせてしまう。そのため特別支援教育就職支援コーディネーターが2年生の就職希望者全員に面談を実施し、面談結果について担任と情報交換を行い、支援を必要とする生徒を特定するようにした。

行政や企業との連携については、発達障害のある生徒を雇用している企業の見学などにより、現場でどのような配慮を行っているかを知ることができ、今後の進路指導の参考となった。

5 課題と今後の方策

<課題>

- ① 生徒の状況に対する保護者の理解。特に外部機関との連携を図る際、保護者にどのようにアプローチをとり、理解を深めてもらうか。
- ② 生徒の発達障害の状況に応じた指導方法と、教師の発達障害に対する理解をどのように深めるか。
- ③ 職業適性検査やソーシャルスキルに関する指導をどのように実施するか。
- ④ 発達障害に対する企業の理解を、どのような方法で深めていくか。

<今後の方策>

- ① キャリア形成の中期に入る2年生の1学期から就職を希望する生徒との面談を行い、支援を必要とする生徒を明らかにする。
- ② 支援の必要性が明らかになった生徒について、本人の就職ニーズや特徴の把握を行い、特別支援教育コーディネーターや担任と協力しながら、家庭や外部機関と連携して支援を行う（個別の教育支援計画・指導計画の作成）。
- ③ 保護者の理解を得るため担任、特別支援教育コーディネーターと連携して、時間をかけた面談を行い、信頼関係を深める。
- ④ 特別支援教育就職支援コーディネーターが企業訪問し、企業の求人担当者に発達障害について説明し、生徒の特徴を踏まえた雇用に結び付ける。